

2022年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース											
アドバンスレッスン2											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	平山雅月・小野正利			実務経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要 発声法をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるヴォーカリストとしての幅をアップさせていきます。歌を歌うためには体全体をつかって正しい発声を身に付け、喉だけに負担がかからないよう歌っていくことが必要である。この授業では、1年次に学んだ「ファルセット」「ヘッドボイス」「チェストボイス」「ミックスボイス」などの発声法や、ヴォーカルテクニック、音域拡大を目指すトレーニング、表現力を増すトレーニング、リズム感を養うトレーニングに加えて、音声学や解剖学の観点から音域拡大のメソッドや各学生の声に合ったトレ											
到達目標 ピアノ伴奏をベースに合奏、独唱歌唱、ボイストレーニングを実施する。「譜面作成技術」「リズム感」「表現」を育てることを目標とする。自立して一人で活動していくことのプロセスを学び、テクノロジーを活用したサウンドロゴと、その制作法も体得する。ヴォーカルテクニックとしては、声にはさまざまな種類があること、またその声を実際に使用しているアーティストを知ること、ヴォーカルスタイルとしてはヴォーカルテクニックで学んだ各声の課題曲を学び、その課題曲を自分のものとしてしっかりと表現しヴォーカリスト、表現者としての技能を体得											
授業方法 歌唱法、演奏法、各ツールの操作法や、サウンドの加工やエフェクトの使用法を解説します。実際にクライアントに求められるような内容に沿ったサウンド作品を制作します。各自の練習/創作法に対して個別最適化した対応を行いながら、各々の内容に沿ったアドバイスをを行います。学生個人が生まれながらにして持つ様々な声質を大事にしながらも、その声質のいい部分をさらに伸ばしていくグループ形式の授業である。他者の声を聞く事で事で自分とは何が違うのかを意識させ、より探究心を持ってボイストレーニングを学ぶことを目的とし、共鳴するポジション											
成績評価方法 試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度(居眠り、私語など)にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材 適時、講師より教材を配布する。											
回数	授業計画										
第1回	前期のフィードバックと課題を基に楽曲を決める。前期の振り返りスキルチェック、前期の復習(1) 前期に学んだヴォーカルテクニックを振り返り、歌唱できる。前期の振り返り										
第2回	譜面の確認をピアノ伴奏で行う。スキルチェック、前期の復習(2) 前期に学んだヴォーカルテクニックを振り返り、歌唱できる。譜面の確認をピアノ伴奏で行う。録音機材の使い方を学ぶ										
第3回	楽曲に対しての考察を共に行いイメージを合わせる。/チェストボイスからヘッドボイスへの移行。/アンビエント系サウンドを使用したサウンドロゴ制作。歌うために必要な声帯、声帯周りの筋肉の動かし方を学ぶ(3) チェストボイスからヘッドボイスまでひっきり返らずに発声できる。ト音記号Cスケール4小節、三連符の初見/ヘ音記号Cスケール4小節、三連符の初見8小節のコードトラックを作り歌を録音する										

2022年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース	
アドバンスレッスン2	
第4回	合わせたイメージを基に演奏。/チェストボイスからヘッドボイスへの移行。/アンビエント系サウンドを使用したサウンドロゴ制作。歌うために必要な声帯、声帯周りの筋肉の動かし方を学ぶ(4) チェストボイスからヘッドボイスまでひっくり返らずに発声できる。ト音記号Gスケール4小節の初見/へ音記号Gスケール4小節の初見8小節のコードトラックを作り歌を録音する
第5回	演奏に対してディスカッションを行う。/16ビートの習得。/バンドサウンドのサウンドロゴ制作。表現力があるアーティストを知る(1) アーティストの楽曲を聞き、声の特徴、どのような表現方法を使っているか分析する。ト音記号Fスケール4小節の初見/へ音記号Fスケール4小節の初見8小節のコードトラックを作り歌を録音する
第6回	曲のイントロやBPMを決める。/4ビート、8ビート、16ビートの習得。/バンドサウンドのサウンドロゴ制作。表現力があるアーティストを知る(2) アーティストの楽曲を聞き、声の特徴、どのような表現方法を使っているか分析する。ト音記号Dスケール4小節の初見/へ音記号Dスケール4小節の初見8小節のコードトラックを作り歌を録音する
第7回	インターの場所や拍数を決める。/表現力があるアーティストを知る。/バンドサウンドのサウンドロゴ制作。広い音域で歌うアーティストを知る(1) テクニック(発声)の練習方法がわかる。ト音記号Dスケール4小節の初見/へ音記号Dスケール4小節の初見譜面を見ながら8小節のメロディーを打ち込む
第8回	アウトロの拍数や終わり方を決める。/表現力があるアーティストを知る。/デジタルサウンドのサウンドロゴ制作。広い音域で歌うアーティストを知る(2) テクニック(発声)の練習方法がわかる。ト音記号B♭スケール4小節の初見/へ音記号B♭スケール4小節の初見譜面を見ながら8小節のメロディーを打ち込む
第9回	再度アレンジした譜面作成。確認。/共鳴ポジションでのヴォイストレーニング。/デジタルサウンドのサウンドロゴ制作。共鳴、発音(3) 前期で学んだ共鳴ポジションを習得し、共鳴ポジションでのヴォイストレーニングを行う。ト音記号Aスケール4小節の初見/へ音記号Aスケール4小節の初見譜面を見ながら8小節のハモリを打ち込む
第10回	メトロノームを使いBPMを安定させる。/共鳴ポジションを使った響きの増幅。/Webページ作成サービスを作品発表に活用。共鳴、発音(4) 子音、母音、習得した共鳴ポジションを使って声の響きを増幅させることを習得する。ト音記号E♭スケール4小節の初見/へ音記号E♭スケール4小節の初見譜面を見ながら8小節のハモリを打ち込む
第11回	全体のイメージを俯瞰で聞きまとめ、ピアノと抑揚を合わせる。/ヴォイストレーニングのルーティン制作。/Webページ作成サービスを作品発表に活用。音域拡大のメソッドを学ぶ(3) 長期的な声のトレーニング法がわかる。個々のヴォイストレーニングのルーティンを製作することが出来る。ト音記号Fスケール8小節の初見(8分音符、シンコペーション含む)ハモリの録音
第12回	抑揚、細かい入りのタイミングなど修正。/ヴォイストレーニングのルーティン制作。/Webページ作成サービスを作品発表に活用。音域拡大のメソッドを学ぶ(4) 長期的な声のトレーニング法がわかる。個々のヴォイストレーニングのルーティンを製作することが出来る。ト音記号Gスケール8小節の初見(三連符含む)ハモリの録音
第13回	本番を意識したパフォーマンス込みの演奏。/Webページ作成サービスを作品発表に活用。/オリジナルサウンドロゴ制作。復習(2) 前期後期のトレーニングを復習し、ここまでの成果を理解出来る。ト音記号Dスケール8小節の初見(8分音符、シンコペーション、三連符を含む)ハモリの録音
第14回	最終チェック/オリジナルサウンドロゴ制作。復習(3) 前期後期のトレーニングを復習し、ここまでの成果を理解出来る。テスト後期まとめ
第15回	授業内発表まとめ 全体のまとめ後期のまとめ全体のまとめ